

福岡市環境審議会循環型社会構築部会議事録

1 日時 令和6年8月27日(火) 14:55~16:10

2 場所 TKP ガーデンシティ PREMIUM 天神スカイホール ウェストルーム
(福岡市中央区天神1丁目4番1号)

3 出席者(敬称略)

福岡市環境審議会循環型社会構築部会委員(8名)

	氏名	役職等
部会長	小出 秀雄	西南学院大学 学術研究所長
	阿部 真之助	市議会議員
	大森 一馬	市議会議員
	平 由以子	特定非営利活動法人 循環生活研究所 理事
	田中 綾子	福岡大学 工学部 教授
	中山 裕文	九州大学大学院 工学研究院 教授
	久留 百合子	リエゾンオフィス 代表取締役/消費生活アドバイザー
	松藤 康司	福岡大学 名誉教授

4 会議次第

1 開会

2 議題

- ・ごみ減量施策の実施状況等について
- ・プラスチックの分別収集導入に向けた状況について
- ・「循環のまち・ふくおか推進プラン 第2期実行計画」の策定着手について

3 閉会

5 議事録

【事務局】

(資料1~3について説明)

【部会長】

ご説明ありがとうございます。ただいまの説明に関しまして、ご意見がありましたらお願いいたします。

【委員】

資料1の6ページですけれども、事業系ごみの中で、資源化困難な古紙が少し多く出ているようなのですが、この資源化困難な古紙はどういったものなのかをお伺いしたい。今後の施策にも多分繋がってくると思うので。

【事務局】

資源化困難な古紙については、食品廃棄物等で汚れているものや、においが強く付着しているもの、あとは内面にプラスチックが張り合わされて防水加工されているものなどが挙げられます。

【委員】

家庭ごみであれば、プラスチックが含まれているものも雑がみとして回収できますけども、事業系ごみの中では、そういうものは分別できてないってことですか。

【事務局】

分別できてないというよりは、リサイクルベース等では、多少分別が粗くても回収はされますが、回収後、古紙問屋に引き渡すときに、プラスチックで防水加工されたものは古紙問屋が基本的に引き取らないという観点から、組成調査の中では資源化困難なものとして分類しています。

【委員】

そういう再資源化業者が育成されないと、今後これが減る見込みはないということによろしいですか。

【事務局】

リサイクル技術に関わってくるとは思いますけど、古紙問屋もコストに関わる部分になりますので、そういうもののリサイクルをどこまで進められるのかというところは、なかなか難しいところではあると思います。なので、古紙問屋さんが受けられない、再生できないということであれば、リサイクルが難しいものになるのではないかと考えています。

【委員】

今後の計画として多分、そういうものをどこまで資源化すればいいのかっていうところになってくるとは思うんですね。今は、どンドンリサイクル率を上げていこうという姿勢を持つてるけども、次の施策のときには、その頭打ちになるところを設定していかないとということの中で、そういったいろんな事情を含めて、調査データがあれば、計画が立てられるかなと思っています。ぜひ、調査の方よろしくお願いします。

【事務局】

1点補足ですが、テトラパックという、豆乳などでよく使われている、中がアルミでコーティングされている容器がありますが、あれは地域によってはリサイクルされているところもあって、福岡市ではリサイクルできないものとして紙パックには入らないものになってるんですけども、それもリサイクルできる事業者が近くにいるかないかということも大きく影響はしてきます。先ほど委員が言われたように、そうした状況も把握した上で、どういった目標を立てていくのか、どこまでやるのかということを決めていきたいと思っています。

【委員】

あと、先ほど地域集団回収の割合が減っているということだったんですけども、いろんな回収ルートがあれば、一番利便性のいいところに皆さん持っていくと思うんですね。多分、集団回収だと月に1回とかになっていて、リサイクルボックスの方が比較的多い、その辺りの利便性だと思うんですね。なので、今後は個別にリサイクル率というよりは、全体の中での古紙のリサイクル率っていう表現の方がいいような気がしました。いろんなツールを使われることが、皆さんが協力する上でも非常に重要で、それぞれ生活スタイルが違うから、近くにあった方がいいとか、いろいろ事情があると思うんですね。だから、福岡市はいろんなツールを持っているので、今後、一括して目標を立てた方が、マイナスって言われると何となく推進してないように見えてしまうんですけど、足してみると、少し上がっているようなので、そちらの方がいいのかなと思いました。以上です。

【委員】

3つほどありますけれども、1つ目は資料1の4ページですが、ここのプラスチックの内訳っていうのが、市として把握されているのは、私たちが普段出すペットボトルとビンですかね、黄色い袋と一緒に出す。それだけではなく、例えば私は、食品トレーなどはスーパー等にほと

んど持っていくんですよね。そういうものも全部把握された上で、減っていると言えるのかどうか、そこをもう少し詳しく聞きたいなと思います。

それから2点目、9ページの指標7ですけれども、これは質問というか意見です。ここは前にも申し上げたかもしれないんですけども、消費者の行動を考えたときに、やっぱりまだ福岡市は消費者啓発が足りないなと思いますよね。これは、例えば年代によって広報のツールが違おうだろうし、それをどういうふうに効率的に、効果があるようにしていくかというところは、今後多分計画策定のところに盛り込まれていくと思うんですが、年代に合わせた広報ツールとか、啓発をしっかり考えていかないと、意外と止まってるなっていう感じがします。だから、計画策定と同時に、循環部会にも関わってきますけれども、どういう啓発をしていくかというところをぜひ、もっと議論していきたいなと思います。

それから最後ですけれども、12ページで、福岡エコ運動協力店ホームページ開設とありますが、これ実はまだ見てないので質問なんですけど、すぐにわかりますか。というのも、ホームページ上でここにいけるかどうか。こういうのって、どういう店があるのかなって探すときには、いくつも探していかないといけないとなかなかみんな見ない。この辺は、すぐに見れるホームページになっているのかどうかという質問です。

【事務局】

1つ目のプラスチックの内訳について、スーパー等の回収も含めて状況がどうなっているか、把握されているかというご質問だったかと思います。ここはごみの組成ですので、ごみとして発生されているものの内訳がこうなっている、ということをお示ししています。一方、資源物として回収されているものがどれぐらいか、それによって発生量が決まってくるので、そこも非常に重要なポイントだと認識はしています。ただ、スーパーでの回収量すべてを把握はしておらず、一部の協力店舗に関してはデータをいただいているんですけども、資源物として回収されているものがどれぐらいあるのかといった全容はまだ掴めてないところがあります。ただスーパー等にデータくださいと言っても負担になるだけですので、その辺りをどう調査していくかということは課題だと感じております。

【委員】

これからプランを刷新していくときに、ここのデータというか情報を踏まえた上で、啓発や回収をどうしていくかということになると思うので。正直、私個人のイメージとしてはすごくたくさんスーパーに出してるなという感じがするので。だんだんと料理が面倒くさくなって、おかずを買うことが結構多く、そうすると入れ物が出てきますので。そういうことで、決して減ってないんじゃないかなというイメージがあって、その辺は次ぜひ、しっかり調査をしていただきたいと思います。

【事務局】

2つ目の啓発につきましては、環境審議会の方でもご意見をいただいておりますし、局としても、広報啓発が非常に重要だということは認識しておりますので、そこは審議会も含めて、どういった啓発が必要かということをご議論、ご意見をいただきたいと考えていますし、我々も真剣に考えていきたいと思っております。

【事務局】

3つ目のエコ運動につきましては、インターネットの検索サイトで「福岡エコ運動」と検索していただくと、すぐ上がってくるようにはなっておりますけれども、そもそも検索しないと見ていただけないということもございますので、このホームページへの誘導策等も含めて、今後さらに検討して参りたいと考えております。

【委員】

ぜひ、お願いしたいと思います。でないとなかなか見られないと思うんですよ。だから、いかに簡単にたどり着けるかというところをぜひお願いします。

【委員】

今、国内の特措法とかいろいろできてますよね。これ見ると市民や自治体の後始末の仕事がどんどん増えて、残念だなという印象を受けます。4ページに「市民、事業者の発生抑制の取組みが進んだことから」と書かれているんですけど、もう少し事業者、製造業者の取組みが本当に進んでいるのかということ、先ほどあったコーティングの資源だとか、いろいろ複合素材が増えてきてますよね。そうすると、市民のレベルだとなかなか分別がわからないようになってきているように感じるのが一つ。

それから購買パターンが、ネット通販などで、買いに行かずに箱物で送ってもらうという、その過大包装、商品は小さいのに大きい箱でくるわけですね。テレビを見ると、雨に濡れたらいけないから撥水性の加工をしたとかね。包装資材業者はそういう開発をしてますけど、そういうごみを減らしてリサイクルしていく方がいいのかなって。だからもう少し「ごみを減らす」「プラスチックを再生する」と言うんだったら、しやすいような。本当に製造者の方の動きがこれで進んでるかな。役所と市民が頑張ってくださいっていう感じにしか見えないんだけど、それで本当にできるのかなっていうね。箱もちょっと硬いんですね。ネット通販なんか、物が痛まないようにプラスチックの梱包が何重にもされている。そういうことを考えると、その辺りの働きかけも並行してしないと、「もういいんじゃないか」っていう人も出てくるんじゃないかと。そのあたりはどうでしょうね。

【事務局】

お菓子の袋などのプラごみについては、これから分別をして資源化をしていくこととしておりますが、確かにプラ新法に関しても、製造者側の環境配慮設計を謳ってはいただけますけど、そこに罰則などの強制力はないわけです。環境配慮設計を取り入れたらグリーン購入の対象になるという程度のインセンティブしかないの、そういったところは課題だという認識をしております。リサイクルに取り組んでいく中で、リサイクルのしやすさ、しにくさがどこに起因しているのかということ、我々が把握できるポイントかなと思います。そういった、こういうところがリサイクルしにくいんだということは、国にも、製造者側にも言っていく必要があって、それがリサイクルコストを下げっていく手段になると考えています。なので、今は全然十分ではないと認識しております。

【部会長】

今、ネット通販の話が出ましたけど、確かに箱は大きくて中身は小さいことがあるんですけど、一方で、製品がきっちり入ったやつもあるんですけど、それはいろんな素材からできてるから、そのまま捨てないといけないみたいなどころもありますよね。ほかいかがですか。

【委員】

私も事業系ごみに関する意見なんですけど、資料3の8ページの右上にグラフがあるじゃないですか。これ、よく見る経済成長とウェルビーイング、環境負荷のデカップリングのグラフだと思うんですけど、福岡市は人口も増えているし、経済的にも結構順調にいったるじゃないですか。だからこのウェルビーイングと経済活動は上がってるんですけど、先ほどの事業系の原単位だとあまり改善していないので、このままいくとごみが増えていくと思うんですよ。事業者数が増えて経済活動が順調だとですね。どうやって切り離すかっていうところを真剣に考えないと、多分事業系ごみのところで、今後この目標達成が難しくなるんじゃないかなと。今、プラスチックの資源循環促進法などで家庭系は割と順調にいったると思うんですけど、事業系の、古紙の話は少しあるけども、それ以外の例えば観光者が増えてとか、新しい事業者がいっぱい来てとか、そういったところのごみをどうやって減らしていくかっていう議論があまり進んでないような気がするんで、今後、もう少し詰めていく必要があるんじゃないかなと思いました。

【部会長】

先日、審議会でも観光とごみの話ってあったと思うんですけど、基本的に関係がないんですかね。

【事務局】

関係がないとは言いづらく、コロナ前の段階で、福岡市の観光客はずっと伸びていましたが、事業系ごみ量はほぼ横ばいで推移してきました。今、コロナが明けて、また観光客が増えてきて、事業系ごみ量は少し増えているというところから考えると、全く関係ないわけではなく、多少なり影響があることは間違いないだろうと思います。ただ、事業系ごみの日常から出される量や、ごみ減量施策の効果と比較すると、そこまで影響は大きくないのではないかと認識しておりますので、全く関係がないとは言えませんが、特化した対策が必要かどうかは検討が必要だと考えております。

【委員】

今話もありましたが、これまで環境審議会の報告を聞いていると、事業系原単位については増えてないけど、事業者が増えたのでごみは増えてますっていう報告がいつもあってるんですね。やっぱりできてないのは明らかで、そこをデカップリングしていかないと。家庭系の方はデカップリングできたんですよ、人口が増えている中で。そこをもう少し真剣に考える必要があると思いますけども、今の話を聞くと、観光客が増えたから直ちにごみが増えることはないだろうということはデータからあるかもしれませんが、商業やサービス業などでごみが出るのは明らかだと思いますので、また審議会でも、事業系は製造業やサービス業の生産が増えたからごみが増えてます、みたいな報告がないように。そうしないと、それに対しての対策が必要だと思います。

【委員】

私の実感として、最近オフィスが変わって、警固神社のすぐ近くなんですけど、朝、休み明けとか警固神社の前のごみがすごいんですよ。あのごみは行政が直接回収してるのか、事業系ではないんじゃないかなという気がするんですね。だから、観光客が増えたことによる、お店のごみは事業系ごみとして量を把握できると思うんですけど、そういう公共的なところのごみの収集っていうのは、データとして出てるのかなとかですね。もうとにかくこの吸い殻、缶、瓶、紙。本当に、外国人が朝見たらびっくりするだろうなっていうぐらい、すごく汚いんですよ。もう少し遅い時間に行くと、綺麗に掃除されているので。

【部会長】

NPO 団体がごみ拾いされてますよね。WeLove 天神協議会とか。

【委員】

全部 NPO がしてるとは思えないんですけど、どこがしてるのかも含めてお伺いしたいのと、そういうごみはどのように把握されていますか。

【事務局】

基本的に地域の方が清掃されるごみについては、区役所の職員などが取りに行くので、公共系として、ごみ量のデータはあります。ただ、警固公園がどういう体系になっているのかは今、具体的にはわからないということなので、その点は確認します。

【委員】

事業系だけでは把握できないごみもあると思うので、その辺も今後、観光客が増えるっていうことに繋がるかなと思うので、もし取れるようだったら少しデータが欲しいなと思います。

【委員】

以前も言ったんですけど、天神ビッグバンでテナントが増えますよね。そうすると、新しく大型ショッピングモールなどを作ると、必ず廃棄物対策の施策を、そういう計画を出さないといけないってなってるんですね。天神界限は、博多駅界限もそうですけど、おそらくごみが多く発生するような事業者ではなくて、紙ごみ、プラごみが出るような業者がいっぱい来て、それこそ支店経営みたいな、本社がイエスと言わないとなかなか動けないような経営構造になっているので、そのあたりの情報というのは、何か協議会などの窓口があるんですかね。それとも、事業者の責任で教育をしてくださいという形でしょうか。どんどん開発しているでしょ。いつも冗談で言うけど、西日本シティ銀行の赤いビルがありましたよね、博多駅前に。もう壊したんだけどね。あそこは、古いお札が出てたかもしれないけれども、紙ごみぐらいだったのが、テナントになってしまったら、結局プラごみとか食品廃棄物も一緒に出てくるだろうと。そういうところを見ると、減ることはないだろうと。ご報告いただいた食品とプラと古紙ね。これから5年10年を見ると、その辺りの新たな施策を考えておいた方がいいのではないかと。そうしないと、近年はコロナであまり増えてなかったんだけど、公共系も含めて、ある日突然どっどごみが増えて、将来目標をかなり再検討しないといけなくなるのではないかという気がしていますが、そのあたりはどうですか。

【事務局】

天神ビッグバンを例に挙げると、従前より、延べ床面積が1.7倍程度増えるのではないかと話を聞いております。事業所の延べ面積あたりのごみ量は特定事業用建築物の実績から把握ができますので、どの程度増えるかの推計はできます。また、ビルに入る事業者の事業形態によりどの程度増減があるのかということも把握はできますので、そういったところから、今後の予測はしっかりしていきたいと思えますし、対策については、先ほど言われたように、事前にごみ減量についての話をしているかと言われると、十分に話ができていないと認識しておりますので、そこも含めて関係部局としっかり共有していきたいと考えております。

【委員】

課題は本当にたくさんあると思っています。「循環のまち・ふくおか推進プラン」の体系のプラスチックのところで、バイオマスプラスチック等の代替があるんですけど、本当にシンプルな話で言うと、昔は生ごみとプラスチックって分かれていたから、分別さえすれば資源化できたんですけど、今食べ物とプラスチックが混じっているのだから、分解できない、どうしようもないものが増えてしまっていて。今、国連機関でもバイオマスプラスチックを懐疑的な目で見ている、海洋性プラスチックだけはいいけど、それ以外のものは駄目だっていうことと、台湾でも、固めるためのポリ乳酸禁止という話なども出てきているので、おそらく、経済産業省の方もそっちの方に振り切ってくる。そんな流れになることから、やはり福岡のこういった策定の方でも早めに。市で法律まで作るのは難しいと思うんです。先ほどの件もそうなんですけど、建物を建てるとき、テナントに入るときに、ルール化してしまえばいいと思うんです。こういうプラスチックのものは望ましくないとか、駄目だみたいなことを出してしまって、本当に業者にとっては厳しいかもしれないんですけど、そうしないと起業した事業者がごみを出してしまうという流れになってしまうので、やっぱりどこかできっちり、これは駄目だみたいなところを設けて欲しいなと思います。できる範囲で大丈夫です。

それと国の動向に沿ってできているかと思うんですが、資料3の8ページの「3. 目指すべき循環型社会の将来像」のところなんですけど、多種多様な循環システムの構築と、地方創生の実現のところやっぱり大崎町が出ていますが、日本の地方自治体が1700以上あって、生ごみを循環してるところが大体290ぐらいなんですね。290の内訳を見ると、政令市は1か所もなく、人口が10万人以下のところがほとんどなんですね。ということは、福岡は160万都市だとすると、やっぱり16地区ぐらいで循環の仕組みを構築するぐらいの感じで見えていくとか、少し切り口を変えて、お金がかからず地域の人自分事として考えられるような仕組みを構築できるといいなっていう感想だけなんですけど、以上になります。

【事務局】

プラスチックの基準に関しましては、なかなか一自治体の話から離れる部分もありますけど、個人的な認識として、バイオマスプラスチックが数パーセント入っているからいいという話ではなく、おそらくやるなら100%でやっておかないと、それこそリサイクルに向かないですし、逆にプラスチック100%の方がリサイクルされやすいということになりかねないので、我々がバイオマスプラスチックを導入するにあたって、その辺りは可能な限り考えるべき視点を整理していきたいと思っています。

また、先ほどありました減量施策の仕組みについては、我々もできるだけコストを抑えながら、資源化、ごみの減量に努めていきたいと考えております。今後、2期計画を作るにあたり、いろいろなアイデアをお伺いできればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【部会長】

2年前、宮崎で廃棄物学会があったときに、バイオマスプラスチックは本当に分解するかという研究があったんですけど、分解しないんですよ。では何を入れたら分解が早まるかってあって、結構面白いなと思ってたんですけど。ほかご意見はいかがですか。

【委員】

基準を厳しくするというか、例えば飲食店の開業にあたって規制がある時に、そこで出た生ごみとか、様々な事業系のごみはしっかりとこういう処理をすれば規制が緩和されるとか、そんなことをしていかないと。啓発は足りない。レジ袋の辞退率とか、令和元年の79.2から91.9に上がったけど結果88%で、実際コンビニの経営者と話して、レジ袋をもらう人はどうしているのかと。3円とか小さい袋もらわずに、5円の袋にして。なぜかと言うと、家のごみ箱の袋にすると。それを45円の大きい45リットルの袋に入れて捨てる、または中だけ出して再使用する。濡れたやつが入ってなかったらね。だから5円の袋は出ているらしい。いろんなところから情報を集めて、この指標に踊らされることなくね。それとやっぱり市民が求めるのはインセンティブみたいな話。レジでもらったからどうなるのって、それがデータの的に、レジ袋1枚もらう度に、例えばこの地域で1万枚消費する度に地球の気温が0.01度ぐらい上がったら、あとどのぐらいしたら40度になるかという、そういうレベルの話をする、と、「人間の生命に危機が及ぶ」みたいな感じならみんなすると思うけど、されてないよ。だからいかんと思う。令和5年度で88%がどうやったら93%になるかと。5%ってそんな簡単に上がらない。

ネット通販の包装についても、ダンボールはものすごく硬い。ダンボールは折れ曲がって中に入ってるし、昔プチプチって潰していたようないらんものがいっぱい入ってる。でも、その商品を守るために入ってるから、必要悪みたいなもの。

もっと、環境の議論を深めていかないといけないと思う。市民全体で取り組まないと意味がない。予算の少ない中でやってるのはわかるけど、もっと、取り組み方っていうか、市民にわかりやすい、取り組んだらこうなるって目指すべきところを示さないと、目標立てた上にこの指標を合わせるためにやるみたいなことがいわゆる帳面消しで、それだけは自分もやりたくない。

【委員】

今指標の話が出たんですけども、例えばリサイクル率向上の指標として、パーセンテージを掲げてますけども、市がこれをやろうと思って積極的に、例えば紙の分別だったり、リサイクルベースの整備だったりをしたわけですから、実際その効果があったのかどうかっていうような指標の方がいいと思うんですね。市が積極的に誘導して、それが増えたと。そうしないと、すべて網羅してしまうと、先ほどみたいに、例えば地域集団回収の量が減っても、別のところに出されている場合もあるんですよ。だったらせつかく市がやったことはよくなかったんじゃないかって、全然進んでないじゃないかって見えてくるので、次からはやっぱり「これをターゲットにこういう施策をやっています」「この施策でこれだけ増えました」という方がいいんじゃないかなと思いました。一括されているので少し見えにくいなって。食品廃棄物にしても、バイオマスの施設にどれだけ事業系のごみがあったのかとか、あるいは、ごみ収集運搬業者が、そちらの施設に誘導した企業の数をどれだけ増やしたのかとかですね、そういうことが

大事かなと思うんですね。特に量よりも、事業者の数はやっぱり大事。一番困っている中小企業のところがなかなか進まないじゃないですか。量が少ないからうちはもういいやと、焼却しとけばいいやっていうところが、多分紙ごみもそうですけども、多いと。やっぱり事業者数みたいなものも、何か指標に入れると、それだけ啓蒙できたということがわかるので、そういう市の施策と連携した指標を設定いただきたいなと思います。

【部会長】

ありがとうございます。そしたら、スケジュール案って冒頭にお話ありましたけど、次は来年の1月ぐらいに2回目があると思いますけれども。循環のまち・ふくおか推進プランの見直しも、その段階で次に進んでるという感じですか。

【事務局】

今年度は振り返りと、数値目標の状況等も含めた現状把握がメインになるかなと思っておりまます。来年度早々には、次の2期計画についての内容を詰めていければと考えています。

【委員】

ごみ減量が進んで、目標を今のところは達成してるという。だから、令和7年とか12年の目標をどうしていくかっていう、それがどこら辺で議論されるんですか。市がある程度計算して出されたものを私たちが審議するのか、それともどこかで議論するところがあるのか、それはどの時期になりますか。

【事務局】

スケジュールでいくと、1月に振り返りと目標値の話をするんですけど、その中で、どういう考えで今後の目標を立てていくかみたいなのはお示しをした上で、来年4月にもう1回部会をやらせていただきますので、その中で、こういう目標に設定していきましょうといったお話の2回に分けて、議論をさせていただきたいと考えています。

【委員】

達成してるのはいいことなんだけれども、これから人口もまだ増えたり事業者が増えたりとかいう中で、どこに数値を持っていくかっていうところは難しいですよ。わかりました。

【委員】

福岡市の数字を見ると、達成目標がどれぐらいのところにあるのかっていう、これだけではほとんどわからないんですね。例えば、レジ袋の辞退が88%と書いてますけど、これはほとんど普通というか、100%近いんじゃないかと。必要だから、レジ袋はあるわけですよ、どうしてもレジ袋を使わないといけないって人たちがやっぱり1割2割いるんじゃないかなと。だから、多くの方が100%目標達成だと。だけどごみの場合は25%ぐらいはどんな罰則規定を設けてもしない人がいるんですよ。だけど、やっぱり市役所が一番ターゲットを、協力しない25%の人たちをどういう施策で味方につけるかというところを、あと20%で達成したと言っても、これはやっぱりまたリバウンドして、どうしても、必要だから返されるわけですよ。例えば2円、3円でももったいないからいいですと。もしかしたらこれ以上上げるのは限界じゃないかと。30円にしたらほとんどの人がいりませんと。マイバッグみたいな袋を家から持っていくというわけね。だから、達成目標を100にしないといけないって話ではないのではないかと。リサイクル率を100%、95%とかやってるところも聞いたことがあるんですけど、大体30、40%ぐらいが限界かなといつも思って。小さい自治体は別として、大体、60、70%はなかなかいかない。だから目標をもう少し、全国のデータを見てみて、有用な自治体を1つの目標にして。その方がやってる人からすると頑張りが持続できるんじゃないかと。一番困るのが「まだ35%ぐらいか」とやってる人が意気消沈してしまわないかと。

それともう1点は、このリサイクル率も、製造量をどっかに入れておかないと、80%リサイクルしましたと資料に書いてあるんですね。ところが10倍とか生産量が増えているわけで、10%、20%はしてないんです。その時にもう捨てられて、散乱してるごみが多いんです。生産

量が増えてる、そういうトリックがあるんですよ、回収率だけで議論すると。だから生産量を書かないと。テレビを見てると、毎日毎日生茶のコマーシャルを見るからね。多分5倍とか10倍ぐらいみんな飲むようになってるんじゃないかと。逆に多くなったじゃないかっていうトリックがある。だからメーカーは絶対それはしないんです。皆さんのおかげで90%達成しましたとか言ったけど。川に流れてるんですね、プラスチックとそれをくみ上げていくわけですから、別の指標で整理していただいた方が、頑張りが持続するかなっていう気がしました。

【事務局】

非常に難しい問題だという認識はしていますが、我々は今、無関心層への広報、啓発に重点を置いてやりたいと思っています。委員ご指摘のとおり、絶対動かない人もいることは認識をしまして、レジ袋の辞退率で言うと、確かに今、9割、88%ほどの横ばいで推移していますが、今の施策上これが頭打ちではないかというところは少し感じております。目標値を93、95にしていることについては、目標を設定した年がレジ袋有料化の後で、有料化したときのインパクトが強かったものですから、少し高めに設定していますが、現状としては今の施策上、これが限界ではないかという認識はあります。更に上げるためには、先ほど言われたように、価格によるインパクトを与えるか、別の方法を考える必要があるのではないかと思います。

リサイクル率の指標に関しましても、以前は数値目標として掲げていたものを今回の計画、取組指標にワンランク落とした形にしています。それは、確かにリサイクル率が高いとリサイクルは進んでるんでしょうけど、発生量は減っていません。ごみの総排出量を減らすことが最も重要なことですので、そういう観点から数値目標にするほどの指標ではないという認識はあります。なので、どのように発生量も含めた総排出量を抑えていくかといったところは、しっかり議論していかないとはいけませんし、我々も考えていかないとはいえないと思っております。

【部会長】

委員の皆様ありがとうございました。今回の議題は環境市議会総会に報告する予定としております。それでは進行を事務局にお返しします。

【事務局】

ありがとうございました。以上をもちまして、本日の環境審議会循環型社会構築部会を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。